

# 明宝地区社会福祉協議会活動計画



国重要無形民俗文化財「寒水の掛踊」

いつまでも、地域の環境を守りながら、  
祭りができて、健やかで安心できる明宝をめざして

## 活動計画の策定にあたって

明宝の高齢化率は40%を超えてきており、子どもの人数は減少傾向にあります。人生100年時代の到来といわれており、みんなが何かしら役割をもつ時代。明宝でいつまでも安心して、自分らしく生活できるよう、住民みんなが地域の声に耳を傾け、生活課題に取り組み、共に支え合うことができる地域づくりが重要になるのではないのでしょうか。

この計画は、明宝の住民同士の「おたがいさま」の気持ちを大切にしながら、助け合いや支え合いによって、いつまでも安心して暮らすことができる「地域づくり」を実現するために策定いたします。

令和4年4月  
明宝地区社会福祉協議会

## 【明宝地区社会福祉協議会とは】

地域のことをよく知っており、その地域で暮らしているからこそ気づける問題や、支えあいによって解決できる課題があります。明宝地区社会福祉協議会(明宝地区社協)は、各地域にある課題を集め、様々な団体と協力しながら住民が主体となって課題解決をめざす団体です。



明宝地区社協  
QRコード

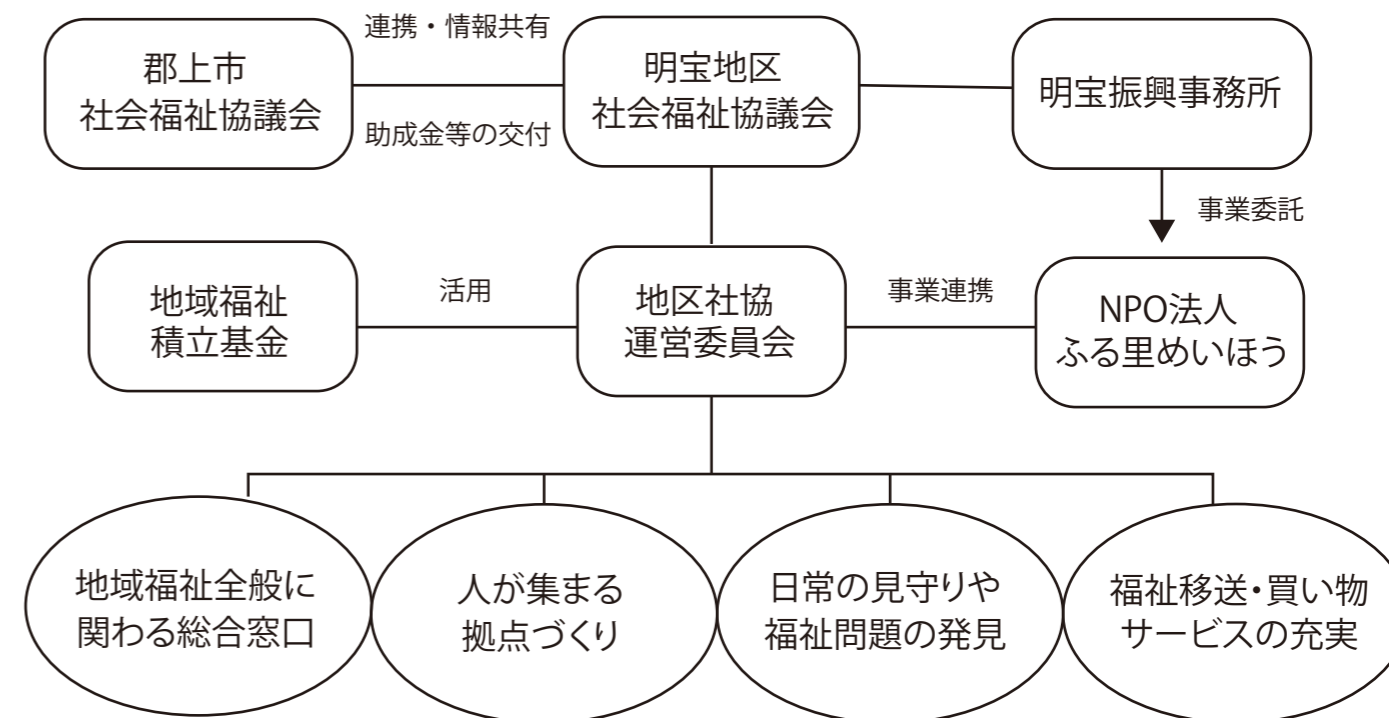
## ○明宝地区社会福祉協議会の活動

- ・運営委員会の開催(年5回程度)
- ・広報活動(めいほうフェスティバルへの参加、月刊めいほうでの活動報告の掲載)
- ・サロン交流会の開催
- ・困りごと相談窓口、支えあい活動の実施
- ・福祉委員研修の開催(見守り台帳、お役立ち情報シートの引継ぎ、更新)

## 【計画の推進】

- 計画の周知  
計画書の全戸配布、広報誌での地域住民への周知
- 計画を推進するための体制、推進管理  
明宝地区社協運営委員会において、事業の振り返り等を行い、必要に応じた活動内容の見直しを行う
- 計画の期間  
令和4年度～令和8年度まで
- 実施主体  
明宝地区社会福祉協議会

## 【推進体制図】





明宝の現状

令和3年4月1日現在

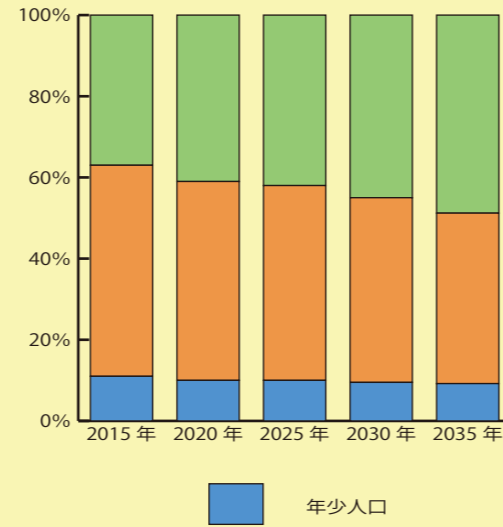
人口	高齢化率	世帯数	高齢者世帯数
1,557人	40.78%	549世帯	176世帯(内:一人暮らし88世帯)

明宝の人口推移予測

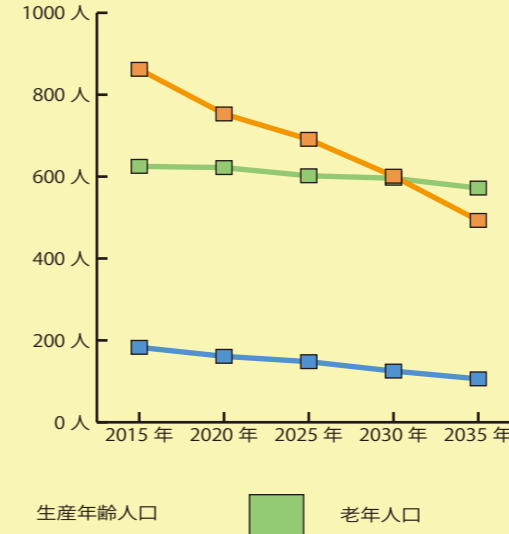
区分	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口(0~14歳)	183人	161人	148人	125人	106人
生産年齢人口(15~64歳)	862人	753人	691人	601人	493人
老年人口(65歳以上)	625人	622人	602人	596人	572人
合計	1,670人	1,536人	1,441人	1,322人	1,171人

資料:「将来人口・世帯予測ツールV2 (H27国調対応版) データ」

年齢区分の割合の推移



各年齢人口の推移



課題

- ・買い物やゴミ出しが出来なくなる等の様々な生活課題への対応
- ・困りごとができて、気軽に頼めない状態
- ・気軽につどえる場所の確保
- ・高齢化による社会参加の機会の減少や孤立
- ・雪おろしや雪かきができない方への支援
- ・買物支援など高齢者の生活ニーズへの対応
- ・地域の環境保全(草刈りなど)の維持
- ・次世代の育成

1. 地域福祉全般に係る総合窓口事業

日常生活を送るうえでの高齢者の困りごとや、子育て世代の悩みなどをNPO法人ふる里めいほうがフロント役として受け止め、具体的な相談が気軽にできる仕組みづくりの強化を行います。

- ① NPO法人ふる里めいほうに相談窓口を継続し、相談業務体制を充実
- ② 地域住民に向けて、福祉について等の講座や研修を実施
- ③ 各地域において、ボランティア活動の継続と新たな担い手育成
- ④ 活動内容を、月刊めいほうで広報



相談窓口



支え合いチラシ



月刊めいほうへの記事掲載



2. 人が集まる地域の拠点づくりの強化

明宝7地域に、活発に活動している「ふれあい・いきいきサロン」などがあり、仲間づくり、閉じこもり予防、情報交換の場として、地域住民にとって大切な場所です。各サロンが引き続き活動が継続できるようサポートしていきます。また、子供から高齢者まで集まれる場の拠点づくりを進めていきます。

- ① サロン交流会を開催し、各サロン間の交流
- ② 次世代の育成とサロン活動の支援
- ③ 委員がサロンへ足を運び、地域住民の声を集め、課題を整理し、地区社協の会議やふる里めいほうの取り組みへフィードバック
- ④ 公共施設の有効活用による、多様な世代が気軽に集まれるようなイベント等を開催



サロン交流会



畑佐いきいきサロン



かのみずわじまサロン

3. 日常の見守り・地域の福祉問題の発見・ネットワークづくり

近隣住民による日常の見守り体制の強化と地域の福祉問題・課題を共有し、解決に向けた検討や仕組みづくりを進めます。

- ① 福祉委員研修を年2回開催し、福祉情報の提供や日常の見守り活動を強化
- ② 見守り台帳を引継ぎ、更新と見守り台帳についての広報活動
- ③ 明宝地域お役立ち情報シートの引継ぎと、更新
- ④ 全戸配布済みである緊急連絡キット内の記入カードの情報更新



福祉委員研修会



お役立ち情報シート



4. 福祉移送や買い物支援サービスなどの充実

年々利用者が増加する福祉移送などのニーズ対応するため、ふる里めいほうのハード・ソフト両面でも体制を整え、新たなサービスの調査研究への支援を進めていきます。

- ① 福祉有償運送の継続支援と充実支援
- ② 買い物弱者支援のための拠点施設整備(道の駅)及び移動販売などへ支援の検討
- ③ 住民タクシー調査研究の検討
- ④ 自動運転サービスへの調査研究協力支援



福祉移送の様子



移送ドライバーの皆さん